

沈 博晩

SHEN, Bowan

中国シャオチーを日本に広めるためのビジュアルブック研究

Research on Chinese snack promotion in Japan

研究の動機及び目的

このテーマを選んだ理由は3つある。
一つ目は、「食」や「ライフスタイル」への興味である。
日本に来てから、私は日本人が中華料理に特別な興味があることを見つけた。日本では中華料理の家庭料理が多い。だが、中国では、普通の家庭料理より、「シャオチー」という食べ物のほうがもっと人気がある。シャオチー（小吃）とは、店や屋台で食べる料理である。「小」は軽い、「吃」は食べるという意味から日本語直訳すれば「軽食」「スナック」になるが、中華文化圏のニュアンスはかなり異なる。

二つ目は、私の出身が浙江省の杭州であることだ。杭州に来た多くの観光客や外国人は杭州のシャオチーを高く評価した。2009年に杭州市旅游委員会が日本市場で調査を行い、一年に一回以上中国へ行く人たちに対して、「杭州の印象」に関する調査を行った。その結果によれば、調査された10.4%の人たちは杭州の「食べ物が美味しい」ことに深い関心がある事がわかった。中国にはおいしい料理をシェアする習慣がある。従って、杭州シャオチーを通じ、日本人にとって、新たな食生活を紹介したい。

三つ目は、日本で杭州の認知度がまだ低くて、メディアから杭州の情報も少ないことである。

本研究では、中国杭州の食文化を調査し、魅力的な杭州シャオチーやその物語などを取材し、日本人が本をメディアとして杭州のシャオチーについて知ってもらい、日本でも杭州シャオチーが食べられるようにする。そのうえで、日本人は杭州に行ってみたくなり、現地の人と日本人がコミュニケーションできるようにすることを目的とする。

研究の方法と分析

中国食文化、杭州シャオチーや杭州の人の食生活などを調査し、整理した。また、杭州に住む日本人、海外から杭州へ来る観光客や現地人がオススメの魅力的なシャオチー、店や街を取材した。

次に、日本における杭州についてのインフォメーションを調査した。地元の人々の視点から見た杭州情報は案外少ないと思う。それと同時に、食に関する書籍、雑誌を分析し、

取材情報を基に「FINDHZ」を制作する。

作品について

1.コンセプト

杭州「シャオチー」ガイドブックである。杭州の人の日常生活でよく見かける「シャオチー」という切り口から食、食文化や杭州の人のライフスタイルなどを紹介し、新たな食生活を発信する。

2.タイトル

FINDHZ：杭州シャオチーとの出会い

3.ターゲット

20-40代女性向け、旅行、食に対する興味を持つ人々である。

4.コンテンツ

Part 1「Welcome to Hangzhou」

杭州基本情報の紹介（地理、面積、気候など）

Part 2「Tasty food with story & local connection」

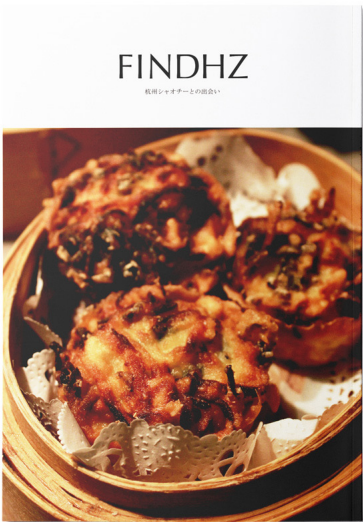
杭州の人の日常生活でよく見かけるシャオチーの中で、現地人がおすすめしたいシャオチーをピックアップ。

Part 3「Hangzhou Food Map」

食べることが好きな人にとって、旅行で一番楽しみなことはシャオチー街を歩き、美味しいシャオチーに出会うことだと思う。杭州の人気シャオチー街を紹介し、その中で、地元の人おすすめしたいシャオチーをピックアップ。

Part 4「Homemade」

杭州の家庭でよく食べているシャオチーの作り方を紹介する。杭州に来なくても家で杭州の味を味わう。



目次



Part 1「Welcome to Hangzhou」



Part 2「Tasty food with story & local connection」



Part 3「Hangzhou Food Map」



Part 4「Homemade」

芸術学専攻

芸術学領域

身体表現領域

Art Science Course

Art Science

Performing Arts
